矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1

発　行　日：令和２年 ３月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第９回全体会議を開催しました！

２月25日（火）に矢作川流域圏懇談会第９回全体会議を開催しました。本年は懇談会を開催する一つの要素となった東海・恵南豪雨から 20 年、懇談会設立から 10 年の節目となります。今年度の活動進捗報告を行うとともに、10 年間のふりかえり、次年度の目標案について、意見交換を行いました。

日　　時：令和２年２月25日（火）14:00～16:30
会議場所：愛知県西三河総合庁舎　10 階　大会議室
参 加 者：65 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1.今年度の取り組みと次年度の活動目標、10 年のとりまとめについて

■懇談会の運営方針について

懇談会は、「矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る」「流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る」ことを目的として活動を行ってきた。

■市民部会・各地域部会の令和元年度の活動進捗報告、10年間の取り組みと成果

各部会の10年間の取り組みと成果については、WGやまとめの会で参加者の意見を集積し、各部会で一覧表にとりまとめた。また、３つの地域部会では、各地域部会メンバーが考える矢作川のこれまでの歩みや社会の流れを整理した「矢作川流域圏年表」を作成した。

●市民部会：3つの地域部会に関連しうる土砂問題の解決策として期待される「土砂バイパス」について勉強会を実施した。また、各地域部会が抱える問題・課題の対象地を訪れ、他部会に課題を紹介するバスツアーの開催を提案した。バスツアーは次年度の開催を目標とし、各地域部会から意見収集を行った。流域住民への懇談会のPR手法についても話し合いを行った。

●山部会：「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを議論した。今年度、新たな事例集の作成は行わず、懇談会の10年誌編集と足並みを揃え、これまでの活動の分析と考察を行った。山村ミーティングでは、林業担い手100人ヒヤリングの成果を共有した。森林環境譲与税の情報共有や木づかい推進も継続的に実施した。

●川部会：「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」の3つのテーマについて議論した。第15回勉強会に参加し、土砂バイパスに関する情報共有を行った。また、支川の現地視察を行い、多自然川づくりや市民主体による小さな自然再生について、意見交換を行った。国土交通省が策定を目指している「河川ごみ対策の手引き（仮称）」についても情報共有を行った。

●海部会：テーマである「豊かな海の再生」について議論した。吉田・東幡豆両漁協の組合長からアサリの漁獲量等の現状について説明いただき、三河湾の漁業の実態について情報共有を行った。また矢作川浄化センターを訪れ、栄養塩類の試験放流について説明を聞くとともに、のり漁場における近年の水質の変化について、情報共有及び意見交換を行った。

■流域連携イベントに関する活動進捗報告

●流域連携イベント：「流域圏担い手づくり事例集交流会2019」の実施、「2019矢作川感謝祭」「第6回三河湾大感謝祭」への出展を行った。矢作川感謝祭では登壇し、懇談会の活動を紹介した。また、矢作川流域圏懇談会クイズを出題し、正解者にオリジナル下敷きを配布することで、集客を行い、懇談会の活動や流域圏の情報を多くの人に発信した。

■各部会の次年度の活動目標（案）

≪市民≫バスツアーの開催を目指して、各地域部会から収集した意見をもとに、バスツアーのルートと内容を企画する。また、市民部会メンバーが知りたい情報や流域住民に知ってほしい情報に関する勉強会を開催する。

≪山≫10 年間をふりかえりながら、「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、４つのテーマについて、情報共有と意見交換を行う。また、４つのテーマの中で融合できる内容を精査し、テーマに絞り込んだ特別 WG の開催を視野に入れて議論を重ねる。

≪川≫10 年間の取り組みを整理する。また、３つのテーマについて複数のモデルにまたがる課題も出てきていることから、テーマの設定の見直しも視野に入れ、引き続き情報共有と意見交換を行う。

≪海≫10 年間をふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

■矢作川流域圏懇談会設立10年のとりまとめ

矢作川流域圏懇談会が2020年に10年を迎えるにあたり、流域圏担い手づくり事例集の制作に携わってきたメンバー（浜口美穂さん、洲崎燈子さん（山）、近藤朗さん（川）、髙橋伸夫さん（海））を編集委員として「矢作川流域圏懇談会10年誌」の制作にあたった。全体会議ではパイロット版を配布した。

2.河川整備フォローアップ・水防災意識社会再構築ビジョンについて

■河川整備計画フォローアップについて

河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。

①治水（現地での意見交換・情報共有）　②利水（情報提供等）　③環境（勉強会等）　④土砂管理（情報共有・勉強会等）

■水防災意識社会再構築ビジョンについての紹介

全国の直轄河川とその沿川市町村において進められている、水防災意識社会を再構築する取組みを紹介した。また、矢作川水系河川整備計画の点検を目的に設置された「矢作川水系流域委員会」の開催状況と矢作川流域圏懇談会との係わりを説明した。

◆主な会議内容

3.今後の計画　｜令和２年度以降の懇談会の体制について

■体制図

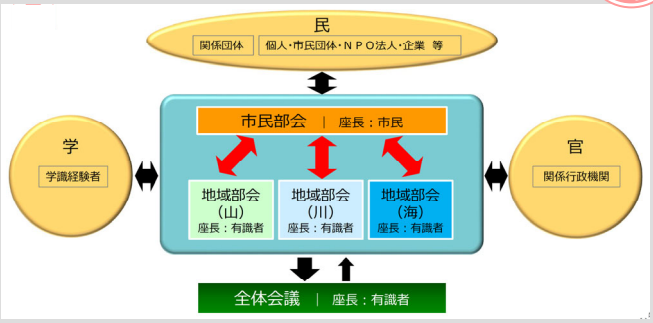
市民部会 WG や地域部会 WG の意見をふまえ、事務局案として右図の体制案を示した。

市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。地域部会の WG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

■スケジュール計画

体制案をもとにした次年度のスケジュールを右表に示す。

- 「市民部会」は WG2 回、まとめの会 1 回を実施とともに、勉強会（仮称　バスツアー）を 1 回行う。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 「地域部会 WG」は、各４回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を 12 月に実施する。
- 全体会議を２月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを２回実施する。
  ①矢作川感謝祭（夏）
  ②三河湾大感謝祭（秋）



令和２年度以降の懇談会の体制（案）

体制・イベント			月										
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
市民部会	WG	勉強会		←			●バスツアー			→			
	まとめの会										●		
地域部会	WG	フィールドワーク		←						→			
	まとめの会										●		
全体会議	話し合いの会												★
流域連携に関するイベント							①		②				

令和２年度以降のスケジュール（案）

◆話し合いでの主な意見

（● 意見　➢回答）

■今年度の取り組みと次年度の活動目標に対する意見

- 各地域部会の内容が専門的かつレベルが高いものになっている。市民部会では、各地域部会の人たちが互いに内容を十分理解するためにどうしたらよいか話し合った結果、勉強会を開催することで意見がまとまった。（光岡）
  - ➢ 山部会の出発点の共有という資料は、川部会や海部会の人がわかるように 2012 年に作成した。この資料を読んでいただき、わからない点がある場合は、ヒアリングを行い、適宜修正したい。（蔵治）
- これまで山・川・海部会間で具体的な交流が少なかった。今年度は市民部会により部会間交流の方向性が確立できた。（井上）
- 市民目線で情報共有を行い、各地域部会で同じテーマについて種々の具体的な提案をしていただくことが最終的には流域住民への情報発信につながるのではないか。（井上）
- 山部会では「山にいっぱい木が生えていることが健康な山ではない」というような単純なメッセージを用意したい。（蔵治）
- 現場を一番知っている森林技術者と研究者、行政が一緒になって森づくりガイドライン作っていければよい。（丹羽）
- 川の本川モデルについて、「土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する議論」が当初から重要であったが、なかなか議論が進んでいない。特に、矢作川漁業協同組合と連携して一緒に議論していかなくてはならない。（内田）
- 餌がなくなって、アサリが生きられないような海になっていることについて、現場の方や研究者と深い議論をすることができた。これにより、海の見方が大きく変わった。もっとダイナミックなプロセスに目を向けていく必要がある。（青木）
- 今年度の海部会では、「きれいな海が豊かな海ではない」ということを再認識することができた。（青木）
- もともと業というのは、市民や地域の人と関わりの深い生業であった。しかし、山の民と海の民、あるいは川に沿って住んでいる人、川の外に住んでいる人、離れたところに住んでいる人の交流がなくなっているために、海・山・川の業に関して、突っ込みにくい課題が出てきているような印象を受けた。（辻本）
- この 10 年や 20 年、30 年というタームで山・川・海の状況がどのように変わってきたのか見ることが必要である。（辻本）
- 「矢作川流域圏懇談会 10 年誌」が矢作川流域で取り組まれている先進的な事例を紹介するツールになるはずだ。（浜口）
- 資料としてまとめられていた各部会の 10 年の取り組みについても 10 年誌に載せたい。（浜口）
- 時代ごとに様々な問題が起きているが、矢作川沿岸水質保全対策協議会や矢作川漁業協同組合の活動のように、常に向き合って対峙する動きが起きてきた流域が矢作川流域である。現在は懇談会とそれに参加する様々な活動がその役を担っている。（近藤）
- 10 年誌は日本各地の団体などが、矢作川流域圏懇談会みたいな活動をやってみたいと思ったときに、どんなことが必要なのか、どんな楽しさがあるのか、またどんな課題が出てきて、どのように乗り越えたのかということを参考にしてもらえるような冊子にしていきたい。また、作り手の・書き手の体温が伝わるような 10 年のふりかえり、事例集のふりかえりにしたい。（洲崎）
- ３つの地域部会間の意思の疎通について、努力はしているが、各部会の認識の差による横のつながりは弱い状況である。山・川・海が協力できるようになったら、今動いていないものが動き始めるはずだ。（髙橋）
- 各地域部会が他部会に読んでほしい資料を共有できるようなシステムを構築してみてはどうか。地域部会の中で共有したい資料の作成を行っていくこともよい。（今村）
- 市民を巻き込んで、防災や地震などいろんな視点で川沿いを歩くイベントをやってもよいのではないか。（今村）
  - ➢ 家下川の水源は段丘で、その先では防災や環境、ごみ問題を見ることができる。家下川の水源から歩いてみたい。（野田）
- 川部会だけではなく、山や海部会における川の情報共有することで、山・川・海の連携につながる。（辻本）
- 矢作川流域圏年表について、カテゴリーの選定理由やどのように年表を見てほしいかをまとめるべきである。（城田）
  - ➢ 編集委員会でシナリオを考えていただき、懇談会メンバーに回覧して、別の見方からシナリオを考えてもらいたい。（辻本）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 神本、指導員　宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。